

ポストコロナの時代 私達は何を考え、どう生きるべきか

北原 茂実 (Kitahara, Shigemi)

医療法人社団 KNI 理事長

【要旨】

今回の新型コロナによるパンデミックを、偶然に起こった単なる自然の災厄と捉えるべきではない。これはある意味、行き過ぎた資本主義による自然破壊、過度のグローバル化、格差社会などが引き起こした人災である。それが理解されずに、医療の関心がワクチンや治療薬の開発による場当たり的な収束にのみ向かうなら、我々は遠からずして新手の更に質の悪いウィルスによるパンデミックに苦しむことになるだろう。

私は、今医療に求められているのは、勿論レベルの高い検査や治療もあるだろうが、それ以上に全ての人々がパンデミックや自然災害、抑圧や貧困におびえることなく、安全・安心・快適に「より良く生きてより良く死ぬ」社会を実現してみせることだと思う。

我々はそんな社会のニーズに応えるべく、今東京八王子市で、IT/AI の力も借りて、我々が「総合生活産業」と定義する広義の医療が中心的役割を担う、理想の街づくりに挑んでいる。本日の講演ではそんなデジタルホスピタルやデジタルリビングウィルなど新しいアイデア満載の「八王子モデル」について具体的に紹介する。

なお、我々にとって IT/AI は、我々のデザインした世界を忠実かつ強力に実現してくれるツールに過ぎない。デザインが誤っていれば、あるいは悪意に満ちていればそれは不幸をもたらす凶器にもなり得るのである。中国でパンデミックを抑え込むために開発された高度な監視システムも、今後監視そのものを目的として発達し続けるなら、私はそんな社会に暮らしたくない。今日はそんな IT/AI の光と影についても合わせ

て議論したい。